The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中国研究集刊　玄号（第3号）　編輯後記/奥付
Author(s)	
Citation	中国研究集刊. 1986, 3
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61172
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編輯後記

＊執筆者紹介。橋本高勝氏は京都産業大学教授、塩出雅氏は武庫川女子大学等非常勤講師、滝野邦雄は大阪大学大学院（博士課程後期）学生、岸田知子氏は梅花女子大学等非常勤講師、ジョンメイカムは大阪大学大学院研究生、竹田健二は大阪大学大学院（博士課程前期）学生、若槻俊秀氏は大谷大学教授。

＊ジョンメイカムは、オーストラリア国立大学の修士課程修了後、昭和六十年四月、国費留学生として来日、二年間在籍の予定である。中国大陸・台湾ともに長期滞在の経歴があり、中国語はきわめて堪能である。易に関心を抱き、山口久和氏（大阪市立大学）に御指導をいただいて今回の成果となった。山口氏に感謝申しあげる。

＊昨年、本研究室の森三樹三郎・大阪大学名誉教授はめでたく喜寿を迎えられた。その祝賀の一つとして、近く同朋舎出版から『六朝士大夫の精神』を刊行することとなった。そこで森先生の受業生の代表として、若槻氏に紹介をしていただいた。

森三樹三郎先生のますますの御壮健をお祈り申しあげる。

＊本誌もようやく第三号を刊行でき、内容も充実してきた。東方書店、朋友書店、山本書店、横田書店、北九州書店を特約書店として市販することにしている。五十人ほどの購読者の方があり、感謝している。引き続き御購読をお願い申しあげるとともに、紹介者の必要はないので、御投稿をお待ちしている。

そのように、本誌は門戸を全国に向って開いており、編輯方針は、論文に限らず、印刷しにくいものや報告類をも歓迎するという立場をとっている。本号で言えば、塩出氏の補論は、表が中心であり、ふつうでは発表場所の困難な例である。

なお、学界には、短い論考を載せない傾向がある。五十枚とか三十枚といった、いわゆる常識的枚数というものが存在する。しかし、商業的原稿で制約のある場合以外、枚数の多寡は本質的なことではない。いたずらに長編で内容空虚なものよりも、短篇ながらも歴史に残る秀作のほうが大切である。本誌は枚数の多寡は問わない。意を尽したものを望むのみである。

＊昭和六十一年五月二十八日早朝、田中利明氏が逝去された。享年五十一。慈教院釈澄明。　田中氏は大阪学芸大学卒業後、昭和三十七年三月、大阪大学文学修士、昭和四十一年三月、大阪大学大学院博士課程退学、寝屋川高等学校勤務等を経て、大阪教育大学教授の職にあった。主として唐代の思想史を研究しておられた。

五月三十日の葬儀当日、西田文夫・大阪教育大学学長、佐藤虎男・大阪教育大学教授（国語科教室代表）に続いて、友人代表として、橋本高勝氏（昭和四十三年、大阪大学大学院博士課程退学）が弔辞を読まれた。

ここに橋本氏の弔辞を録し、もって本研究室として深く哀悼の意を表し申しあげる。

弔辞。謹んで故田中利明君の御霊前にお別れの言葉を申します。こう云わねばならないとは実に悲しい。

君はかねてより俺の故郷、東北の片田舎に行ってみたいと強く望んでおられた。昨年の秋はその約束のときであった、が、君は思わざる病に倒れ、ご家族の深く祈る思いにもかかわらず、帰らざる旅の客となられた。享年五十一。君の命を奪い、不帰の旅路につれ去ったその病をにくむ。

思えば君の立居振舞は常に端正であった。それが君の、人生を考え、社会をみつめる真摯な態度に根ざすものであることはいうまでもない。君はまた中国学の研究においてもその真摯な態度で地道に着実に努力してこられた。それを中途にして旅立たねばならなかったこと、利明君、本当に残念であろう。まして不本意にも奥さん、お子さんとの別れ旅となったこと、これには胸もはりさけんばかりであるにちがいない。

今となってはどんな言葉もむなしい。ひたすらご冥福を祈るばかりである。利明君、お願いする、奥さんには悲しみに耐え抜く力を、お子さんには進み行く道に光を。

一九八六年五月三十日

友人代表　橋本高勝

＊田中さんは、本研究室の古い出身者である。昨年、本誌地号を謹呈したとき、そのお礼状にこういうおことばがあった。「雑誌刊行費用を早く負担させて下さい」と。

本誌刊行に物心ともに苦労している私にとって、このおことばは非常に嬉しく、かつありがたかった。おそらく、田中さん御自身に、雑誌刊行の御経験がおありだったのであろう。

昨年八月下旬、田中さんと、二度、電話で長く話したことがあった。あのとき、二人でいっしょに腹をたてながら話しあったことは、今はもう私一人の胸の底に残るのみである。

その後、九月下旬、突如入院し手術を受け、意識不明のまま帰らぬ人となった。

（加地伸行）

中国研究集刊　　玄号（１９８６年６月２１日発行）
編輯・発行　　大阪大学文学部中国哲学研究室
加 地 伸 行
郵便振替口座番号　　大阪６－３４４１３　　中国研究集刊
印刷・タカラ写真製版㈱